

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.8.15 号外 連絡先 FAX 042-555-1911



沖縄 米空軍ヘリ キャンプハンセンで墜落・炎上 民家から2キロ

8月5日午後4時すぎ、沖縄本島中部の米海兵隊演習場キャンプ・ハンセン内に米空軍嘉手納基地所属のHH60救難ヘリ1機が墜落、炎上しました。墜落場所は、宜野座村で民家からは約2キロしか離れていません。役場では職員や消防車を派遣しましたが、米軍が基地を封鎖し入れませんでした。



沖縄の空をわが物顔で飛ぶ無数の米軍機、いつ落ちるか分からないという不安が常にあります。その不安が現実になりました。いつ住民の命や財産を奪うか分からない米軍機は飛行停止を！

MVオスプレイ 普天間基地に配備再開強行 ヘリ事故の究明ないまま



米海兵隊は8月12日、岩国基地に駐機していたMV22オスプレイ9機を、普天間基地へ強行配備しました。全機の移動が完了すれば、24機・2個飛行中隊になります。

米海兵隊は、キャンプ・ハンセンで発生した米空軍HH60救難ヘリの墜落事故を受け、追加配備の延期を発表していましたが、事故からわずか1週間で追加配備の強行です。

(左写真：8月12日、普天間に到着したオスプレイ、米海兵隊HP)

米海兵隊は12日の報道発表で「オスプレイは米軍航空機のなかで最も安全」だと述べていますが、昨年だけでも2件の墜落事故を起こし、これまでに36人が死亡しています。

米海兵隊は13日、「2機のオスプレイが最長飛行記録を樹立」と報じる



米海兵隊は8月13日、「2機のオスプレイが普天間基地からオーストラリアまでの飛行任務を敢行し、最長飛行記録を樹立した」と報道。

(以下、報道抜粋)「この任務では空中給油を行い航続距離を伸ばし、必要着陸回数を抑え、任務に必要な飛行時間の短縮を行いました。

この記録的な飛行では、2機のKC-130Jスーパーハーキュリーズ空中給油機がオスプレイを支援しました。この任務に参加したスーパーハーキュリーズとオスプレイは、共に普天間基地に所属しています。」「オスプレイは、8月2日に普天間基地からフィリピンのクラーク航空基地に、そして翌3日にはオーストラリアに到着しました。オスプレイは米海軍強襲揚陸艦ボノム・リシャルに着艦して留まり、スーパーハーキュリーズは普天間基地へと帰途に付きました。」(写真：空中給油するオスプレイ、海兵隊HPより)

第6回定期総会のお知らせ —横田基地の撤去を求める西多摩の会—

日時：8月31日(土) 1時30分～4時 会場：羽村市産業福祉センター iホール

◎第1部 記念講演 「米軍基地違憲『伊達判決』の歴史的意義」

—米公文書館調査で明らかになったこと—

講師：末浪靖司氏(フリージャーナリスト、『対米従属の正体』著者)

◎第2部 定期総会 3時～4時 (「撤去の会」では参加を呼びかけています。)



航空自衛隊、レッド・フラッグ・アラスカに参加

(8月15日号外の裏面)

7月24日の航空自衛隊 報道発表資料で、米空軍が8月に実施する演習（レッド・フラッグ・アラスカ）に、航空自衛隊が参加することを報じています。期間は、7月25日（木）～9月6日（金）ですが、レッド・フラッグ・アラスカ演習期間は、8月9日（金）～8月24日（土）です。

訓練実施場所は、米国アラスカ州アイルソン空軍基地とエレメンドルフ・リチャードソン米軍統合基地の周辺空域です。防空戦闘訓練や空中給油訓練及び戦術空輸訓練が実施されます。

訓練参加部隊は航空総隊及び航空支援集団で人員270名です。航空機は、F-15Jが6機、E-767が1機、C-130Hが3機です。

F-15Jが、日本とアラスカ間を移動する際には、米空軍空中給油機による空中給油を受けます。

横田基地には8月に入って、大型空中給油機のKC-135やKC-10が10機も飛来していました。



(写真は横田基地に飛来した大型空中給油機 KC-10)

オスプレイが使う着陸帯 伊江島に6カ所建設 殴り込み能力を強化

8月6日付『赤旗』紙の、「米海兵隊オスプレイ 伊江島に着陸帯6カ所」の記事を紹介します。

《米海兵隊の垂直離着陸機MV22オスプレイの着艦訓練場として、爆音被害などが激化している伊江島補助飛行場（沖縄県伊江村）に、オスプレイが使用する新たな着陸帯が6カ所、建設されていることが分かりました。3日から普天間基地（同県宜野湾市）への追加配備も始まり、住民の間にはさらなる訓練激化を懸念する声が高まっています。

在沖縄米海兵隊司令部は本紙の質問に対し、「約1カ月前から着工し、今夏に完成する」と回答。「オスプレイを含む垂直離着陸が可能な軍用機が使用する」として、オスプレイ用の着陸帯であることを認めました。また、6カ所のうち4カ所は、アルミ板を敷く「AM2」と呼ばれるタイプで、「遠征飛行訓練に使用する」としています。強襲揚陸艦への着艦訓練を行うとみられます。残る2カ所は砕いたサンゴ礁を敷いた「コーラル」タイプです。不整地での離着陸を想定したものとみられます。いずれも、海外への殴りこみ能力を強化するものです。

目撃者の証言によると、着陸帯はおおむね、50メートル四方の広さです。

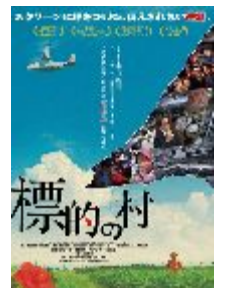
オスプレイ配備に伴う「環境レビュー」（昨年6月公表）によれば、伊江島では強襲揚陸艦への着艦訓練を行うため、従来のCH46ヘリと比べて年間運用回数が約4000回増えます。

ただ、新たな着陸帯は「環境レビュー」に示されておらず、日本政府も伊江村に対して、既存のハリヤーパッドや滑走路を使用して訓練すると説明していました。今後、さらなる訓練の拡大につながる危険もあります。》

伊江島では、5月はじめ、オスプレイが110人ものパラシュート降下訓練を行いました。6カ所のオスプレイ用着陸帯の建設は、ますます訓練を激化させるでしょう。オスプレイの配備撤回を！

ドキュメンタリー映画『標的の村』が ポレポレ東中野で上映中

米軍基地が集中する沖縄で今何が起きているのか。米軍輸送機オスプレイ用ヘリパッド建設に反対する沖縄県東村・高江地区の人々を追ったドキュメンタリー映画『標的の村』が、8月10日からポレポレ東中野で上映されています。監督は琉球朝日放送キャスターの三上智恵さん。ぜひ御覧を。現在、12時40分からの上映が1回だけですが、盛況につき今後、期間延長や回数増もあるようです。



◆◆ 8月15日 終戦記念日 平和憲法を守ろう！ 憲法違反の米軍基地は撤去を！ ◆◆

